

重点課題

【課題1】「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることができる」(大問1設問二) (平均正答率 54.4%)
文章の展開に即して必要な内容を過不足なく捉えることに課題がある。

【課題2】「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことができる」(大問2設問三) (平均正答率 59.5%)
課題の解決に向けた自分なりの考えを明確に表現することに課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】話の中心的な部分としては話題について筆者が特に伝えたいこと、付加的な部分としては話の中心的な部分を分かりやすく伝えるための説明や具体例の提示を意識させる指導をする。また、筆者の意見とその根拠となる事実との関係を明確化・視覚化できるワークシートなどを活用した授業を行う。また、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めさせる指導を行う。

【課題2】少人数(班)で話し合うことの特徴や利点を生かしながら、経過・到達点を意識しながら話し合わせる指導を行う。また、聞き手の立場として、話の内容を理解したり自分の考えをまとめたりするために質問することや意見を述べる手順を指導する。

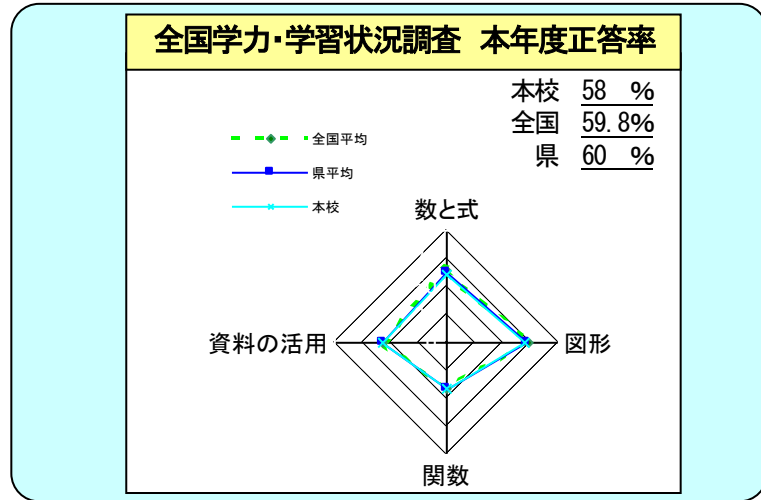
※ 小中一貫した取組については、目的や場面に応じて、全体の構成を捉え、条件に合わせて、考えをまとめて書く活動に重点を置く。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2・3年期末試験		1・2年休み明け試験 3年学年末試験	1・2年学年末試験	
目標値			1年50% 2年・3年60%		1年55% 2年65%・3年65%	1年60%・2年70%	
実施後数値			1年70% 2年57%・3年57%		1年61%・ 2年68%・3年57%	1年58%・2年58%	

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2・3年期末試験		1・2年休み明け試験 3年学年末試験	1・2年学年末試験	
目標値			1年45% 2年50%・3年60%		1年50% 2年55%・3年65%	1年55%・2年60%	
実施後数値			1年70% 2年57%・3年57%		1年61% 2年68%・3年57%	1年58%・2年58%	

来年度に向けて

話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりしながら、具体的な自分の考えを適切に表現する力を身に付けさせる。



重点課題

- 【課題1】** グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈する問題 (大問6 (1)) (平均正答率 31.6%)
 点Pのy座標と点Qのy座標の差は、冷蔵庫Aを購入してから8年間の電気代を表していると捉えることができなかつたと考えられる。「差」でなく、y座標そのものの値 (総費用) を答えている。
- 【課題2】** 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかをみる問題 (大問6 (2)) (平均正答率 39.2%)
 方程式や使用年数についての記述がないもの、解き方の説明は無回答が多い。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

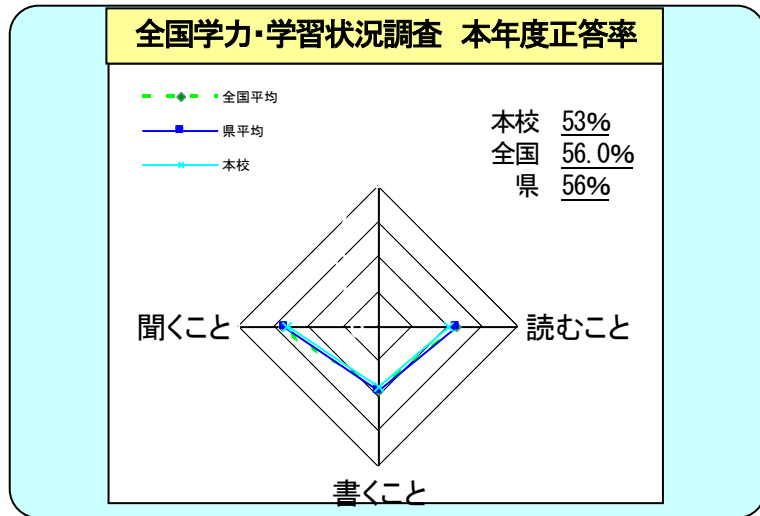
- 【課題1】** 何が分かっているか、何を求めるのか、読み間違いや読み落としを防ぐため、問題文に囲みをさせる。具体的な数値に単位を付けて、その意味を明らかにさせる。
- 【課題2】** 問題解決の方法を数学的に説明する欄をワークシートに入れる。「表・式・グラフ」などのキーワードを示し、それを用いて書かせる。ステップを設けて取り組みやすくするなど段階的に指導を行う。
- ※ 小中一貫した取組については、単位に注目して数量の関係を捉え、変化の特徴や問題解決の方法を「図・表・式・グラフ」などの数学的表現を用いて書く活動に重点を置く。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年・3年期末試験		2年休み明け試験 3年学年末試験		
目標値			2年 40%・3年 50%		2年 50%・3年 60%		
実施後数値			2年 51%・3年 58%		2年 72%・3年 62%		

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年・3年期末試験		2年休み明け試験 3年学年末試験		
目標値			2年 40%・3年 50%		2年 50%・3年 60%		
実施後数値			2年 51%・3年 58%		2年 72%・3年 62%		

来年度に向けて

問題の意図や注意点を理解できる生徒の割合が多くなってきたが、途中式が順序よく書けない生徒についても、来年度も引き続き細かくステップを設けて段階的に指導にあたる。



重点課題

- 【課題1】** ①「読むこと」の領域において、書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえる問題に課題がある。(大問8) (平均正答率7.6%)。
 文法事項に誤りはないが、問題に対する適切な自分の考えを示していない生徒が34.2%であった。
- 【課題2】** ②「聞くこと」の領域において、聞いて把握した内容について、適切に応じる問題に課題がある。(大問4) (平均正答率6.3%)。
 来日する留学生の音声メッセージを聞いて、留学生に対してアドバイスを書く問題であるが、文法事項に誤りはないがアドバイスになっていないものを書いた生徒が25.3%であった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- 【課題1】** 問題文をよく読み、求められている解答を的確に掴む指導を行う。また、長文問題を行う際に、感想や意見を示すことを念頭に置いて、話の内容などを主体的に捉える指導を行う。
- 【課題2】** インタビューテスト等を定期的に行い、話し手からの依頼、提案などを聞き、適切な応答を相手に返す指導を行う。具体的には、3文から4文程度の英文を聞き、何を聞かれているかを書き取る練習から始める。
- ※ 小中一貫した取組については、ALTなどとの活動で、相手の質問を聞いて把握した内容について、自分の考えや思いを表現する活動に重点を置く。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			3年期末試験		3年学年末試験	2年学年末試験	
目標値			50%		60%	60%	
実施後数値			50%		49%	66%	

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			3年期末試験		3年学年末試験	2年学年末試験	
目標値			50%		60%	60%	
実施後数値			50%		49%	66%	

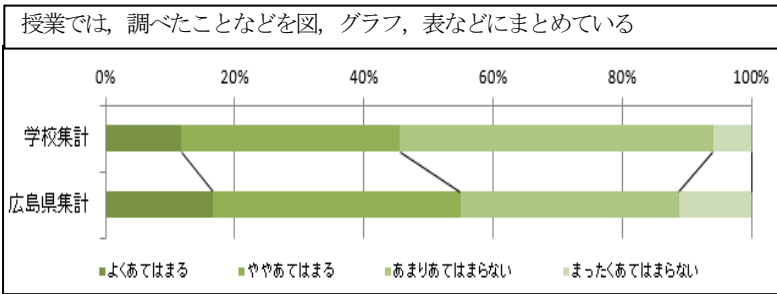
来年度に向けて

ペアトークやインタビューテスト等の活動を行うことで、英語を話すことへの抵抗はなくなってきたが、相手の伝えたいことや、英文の内容を的確に掴むところに課題がある。来年度はさらにディクテーションを積極的に取り入れるなど工夫を図っていく。

2 質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査) (全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査)

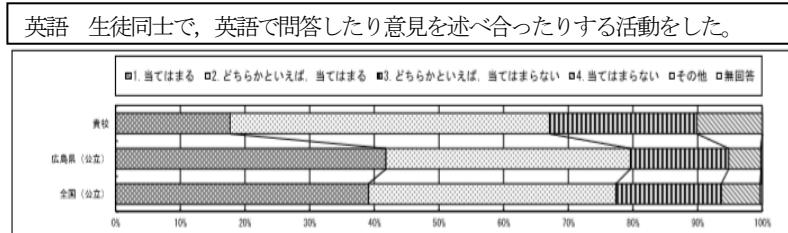
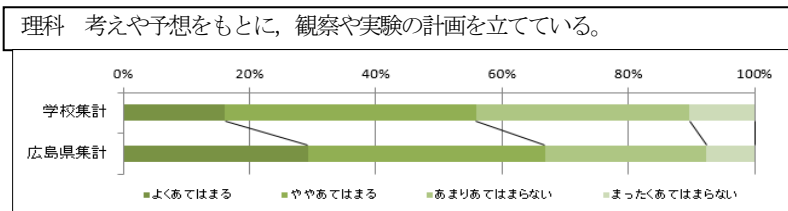
令和元年度 和庄中学校

(1) 生活・学習



	生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
基礎・基本	「授業では、調べたことなどを図、グラフ、表などにまとめている」と肯定的回答が県平均55%に対して45.6%であった。	数学・理科・社会等の教科の授業で学んだことを活かして総合的な学習の時間でもグラフや図を用いてまとめさせる。	2	60%	3学期「総合的な学習の時間」事後アンケート	3学期	臨時休業のため未実施
全国	「読書は好きですか」という肯定的回答が県平均69.2%に対して53.2%であった。	朝読書の充実を図るとともに、図書委員を中心に生徒朝会や昼の放送でおすすめの本の紹介を行い、読書に親しみをを持たせる。	3	70%	生徒アンケート	2学期	70%

(2) 教科



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
国語	基礎・基本 「伝えたいことを中心をはっきりさせ、組み立てを考えて文章を書いています」の肯定的回答が県平均73.3%に対して60.3%であった。	モデルを示し、組み立てを意識させるようにワークシートを工夫しつつ、自分の考えを書く機会を増やす。	2	肯定的回答70%	生徒アンケート	12月	82%
	全国 「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」という回答が県平均83.7%に比べ69.6%と低かった。	授業で使用するワークシート等で答えの書き方の手順を提示するとともに、書く場面を増やす。	3	記述式の問いの解答率72%	学年末試験	1月	67%
数学	基礎・基本 「文章に書かれている関係を式で表すために、絵や図、数直線、言葉の式などを使って考えている」の肯定的回答が県平均63.2%に対して58.8%であった。	授業の中でもノートに絵や図、数直線、言葉の式などを使って考えさせる場面を増やす。	2	肯定的回答65%	学年末試験後のアンケート	3月	臨時休業のため未実施
	全国 「数学の問題で、解答を言葉や数、式を使って説明する問題をどう解答したか」で、無解答が県平均3.3%に対して6.3%だった。	キーワードを示してそれを用いて問題解決の方法の説明を書かせるなど、書く機会を多く設ける。	3	無解答3%未満	学年末試験	1月	5%
理科	基礎・基本 「理科の授業では、自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画を立てています」の肯定的回答が県平均66.8%に対して55.9%であった。	「どうすれば解決できるか」をグループで考えさせるために、ワークシートを工夫し、個人思考の後、発言する機会を増やす。	2	肯定的回答が70%以上	生徒アンケート	2月	80%
英語	基礎・基本 「英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています」の否定的回答が県平均38.8%に対して36.7%であった。	授業の中で、自分の考えや気持ちを英語で表現する場面を多く設定し、相手に伝わるという自信や達成感を持たせて、英語で話すことへの苦手意識を少なくする。	2	否定的回答20%以下	生徒アンケート	12月	14%
	全国 「聞いたり読んだりしたことについて生徒同士で、英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をした」の肯定的回答が県平均73.3%に対して60.3%であった。	ALTと問答する場面は多く設定したが、生徒同士の場面は少なかったので、今後は増やす。テーマを工夫し、意見を交流する場面を多く設定する。	3	肯定的回答70%	生徒アンケート	1月	65%